

令和5年 第1回 市議会定例会

市長所信表明(要旨)

蕪崎市

本日ここに、令和5年第1回市議会定例会の開会にあたり、提出いたしました案件の概要説明に先立ち、私の市政を担当するにあたりましての所信と施策の基本的な考え方について申し上げ、議員各位並びに市民の皆様の深いご理解と絶大なご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

サッカーJリーグの開幕を告げるスーパーカップが国立競技場で開催され、天皇杯で優勝したヴァンフォーレ甲府が昨シーズンJ1を制した横浜Fマリノスを相手に互角の戦いを繰り広げました。

ウォーミングアップの時から各選手の応援歌が響くなど、スタジアムは熱気を帯び、大都市をホームタウンとする相手チームに勝るとも劣らぬ声援に後押しされて強豪チームに挑む姿に感銘を受け、私も市政運営における様々な課題に対し、「チーム韭崎」で積極果敢に挑戦する気持ちを新たにいたしましたところであります。

先月29日、スポーツコミッション主催の第1弾イベントとして、プロトレイルランナー山本健一氏監修のコースを舞台に「エンジョイ3時間耐久・トレイルランニングリレー大会」を開催いたしました。

当日は、県内外から46チーム、総勢181名の参加があり、キッチンカーやテントサウナも楽しみながら、冬の穂坂自然公園の景観と参加者同士の交流を満喫していただきました。

今後は協定を締結した山梨学院大学や民間企業との連携・協働を強化し、本市が誇る自然環境や人材を活かした通年型の健康スポーツイベントの展開により、市民の皆様のウェルネスの実現と地域の活性化を推し進めてまいります。

現在、策定を進めております第7次総合計画後期基本計画につきましては、審議委員をはじめ、各種団体や市内企業、関係者等のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、幅広い世代の意見を反映させるため、市民はもとより、子育て世帯、中高生、市外在住の就業者に加え、関連する多くの各種団体等からもアンケートやヒアリングなどを実施したところであります。

明年度からは、SDGsの理念を盛り込んだ後期基本計画に基づいた施策を展開し、「すべての人が輝き 幸せを創造するふるさと いらさき」の実現を目指してまいります。

きて、新型コロナウイルスの感染拡大から、3年が経過いたしました。この間、何度も押し寄せる感染の波を超えるため、市民の皆様や蕪崎市医師会並びに関係団体のご協力をいただきましたことに、改めて感謝申し上げます。

先般、政府は新型コロナウイルス感染症の法的な位置づけを今春、5類に引き下げることを表明いたしました。

ウィズコロナの取組みといたしましては、一步前進し、経済回復に向けた気運醸成にも繋がるものと言われておりますが、医療体制や治療薬の公費負担の継続等、様々な課題も懸念されており、現場に混乱が生じないように議論と調整を十分に行うよう求めるものであります。

過日、政府が発表した「月例経済報告」では「このところ一部に弱さがみられるものの、穏やかに持ち直している」として、11箇月ぶりに下方修正するとともに、消費者物価は「上昇している」とし、食品などの値上げが見込まれるとされております。

また、先月16日に日本銀行が発表した12月の国内企業物価指数では、前年同月比で10.2%上昇し、伸び率が過去最大となりました。

企業がコストを製品価格に転嫁する動きが一段と強まれば、物価上昇に伴う家計への影響が危惧されるところでありますので、今後も、資源の高騰などによる地域経済の動向に注視してまいります。

以下、明年度の施策の展開方針につきまして、新規・主要事業の主な内容をご説明申し上げます。

始めに、学校教育の充実についてであります。

多子世帯における保護者負担の軽減を図るため、市内小中学校に在籍する児童生徒のうち第二子以降の給食費を無償化し、幼児期からの切れ目ない子育て環境を充実してまいります。

また、食材費の高騰に伴う増額分につきましては、引き続き公費負担とし、栄養バランスや量を維持した給食の提供に努めてまいります。

次に、公園整備の充実についてであります。

ベビーファースト宣言に基づき、笑顔で利用できる居場所・環境づくりに取り組むため、蕪崎中央公園ちびっこ広場の複合遊具を入れ替えるほか、おむつの交換台や幼児用便器などを備えたユニバーサルデザインのトイレを新設し、男性が育児参加しやすい環境と親子が楽しく触れあえる場所へとリニューアルいたします。

次に、子育て支援の充実についてであります。

コロナ禍の影響等により、育児に対して不安、又は負担を抱える子育て世帯が増加する中、要支援の妊産婦やヤングケアラー等がいる家庭環境を改善するため、支援員が個別に訪問する事業を新たに実施してまいります。

葦崎東保育園の民営化につきましては、現在、移管事業者による水害対策のための建設用地の嵩上げ工事が行われており、明年度は、園舎の建築に着手する予定となっております。

また、山梨英和ダグラスこども園におきましては、藤井町地内に移転し、新たに施設を整備することとしており、受入れ人数の拡大と教育、保育活動のさらなる展開が見込まれておりますので、本市といたしましても、整備に対する支援を行ってまいります。

次に、防災体制の強化についてであります。

消防団活動につきましては、明年度から火災などの災害をはじめ、警戒活動や市が実施する訓練等の出動に応じた報酬制度を創設いたします。

災害の多発化・激甚化が進み、消防団員一人ひとりの役割は大変重要でありますので、今後も消防団の資機材を充実するとともに、団員の確保に向け処遇改善と行事の見直し等を行ってまいります。

次に、健康づくりの推進についてであります。

成人期における歯周病は、有病者率が高く、基礎疾患や生活習慣との関係が注目されておりますので、予防対策として、節目年齢を対象に歯周疾患検診事業を実施いたします。

歯科検診を受診する機会を定期的に提供することで、セルフケア意識を高め、口腔衛生の向上に努めてまいります。

また、産後うつ病につきましては、発症リスクを軽減させるため、新たにヴァンフォーレ甲府との連携による予防教室を開催し、産婦が心身をリフレッシュすることにより、母子の心の健康と乳児の発達に寄与してまいります。

次に、医療体制の充実についてであります。

市立病院の訪問看護ステーションにつきましては、改修工事が完了し、明年度からの本格稼働に向けて準備を進めております。

また、内科と新設するリウマチ科の常勤医師を増員し、市民ニーズに対応した診療体制の充実を図ってまいります。

次に、資源循環型社会の構築についてであります。

第3次環境基本計画につきましては、市民の皆様をはじめ、事業者、小中学生の幅広い意見のほか、審議会委員の専門的な知見を取り入れながら、現在、策定を進めております。

地球環境問題や身近な生活環境保全などの新たな課題への対応と SDGs の視点も踏まえた「自然と共生する持続可能な美しいふるさと」を望ましい環境像として定めたところであります。

明年度には、計画の趣旨に基づき、資源リサイクル品の排出機会を拡大するため、昨年10月からのプラスチック一括回収に加えて、本庁舎裏に常設の拠点会場を設け、さらなる廃棄物の削減とリサイクルを推進してまいります。

また、ゼロカーボンシティを目指した地球温暖化対策として、公共施設への太陽光発電設備の整備に向けた調査や電気自動車の導入などを予定しており、今後、次世代につながるまちづくりを推し進めてまいります。

次に、定住対策の促進についてであります。

本年度の住宅施策実現性調査により、住環境におけるニーズを把握したところであり、今後は、この結果を基に市有地を含めた候補地を選定し、具体的な施策に取り組み、人口減少対策、及びより良い生活基盤の構築に繋げてまいります。

また、穂坂地区における住宅整備可能性調査を実施するとともに、市内に社宅を整備した事業者に対する助成制度を創設し、本市への定住を促進してまいります。

さらに、事業者が定住促進住宅を社宅として、利用することができるよう、条例改正案を今議会に提出しております。

次に、スポーツ活動の充実についてであります。

市営新体育館につきましては、建設用地を購入するほか、関連する設計業務を進めてまいります。

併せて、老朽化している菟崎中央公園陸上競技場につきましても、改修に向けた設計を実施いたします。

また、総合運動場の新しい夜間照明設備につきましては、明年度内の工事完了を目指してまいります。

次に、地域文化の創造・継承についてであります。

幅広い視点から施設の方向性を調査検討しております文化財保存活用施設につきましては、来月完成する基本構想に基づき、明年度は新府城を中心とした本市の歴史文化を市内外に広く発信し、後世に継承する拠点づくりを進めるため、基本計画の策定に着手してまいります。

また、本市が生んだ偉大な実業家・小林一三の生誕150周年の記念事業として、4月のふるさと偉人資料館での企画展を皮切りに、講演会や茶会、宝塚 OG 公演などの催しのほか、年間を通し、一三の人となりと業績を市民に広め、郷土愛の醸成に繋げてまいります。

次に、公共交通網の整備についてであります。

これまでの課題を踏まえ、また今後の人口減少や高齢化に伴う交通弱者の動向を見据えた上で、既存路線の検証を行うとともに最新技術の活用や効率的な配車手法なども調査研究し、持続可能なサービスが提供できるよう、地域公共交通活性化・再生法に基づく計画を策定してまいります。

次に、道路の整備についてであります。

市道神山27号線及び39号線につきましては、狹隘(きょうあい)箇所を拡幅し、大型車両のすれ違いを容易にするため、明年度以降も継続して工事を実施するほか、市道穴山5号線及び市道穂坂97号線につきましては、詳細設計業務が完了しましたので、用地買収を進めてまいります。

また、市道葦崎6号線につきましては、岩下地区、上ノ山地区間における急傾斜地崩壊区域の防災対策として、道路、法面工の詳細設計を実施いたします。

次に、農業の振興についてであります。

農業や農地を守り、発展させていくため、現在、円野町、清哲町、神山町において、農業関係者が協議し、将来の在り方などを決めていく「人・農地プラン」の実質化を支援しているところであります。

今後も、地域とともに担い手確保をはじめ、効率的な農地利用や集積・集約などを推進してまいります。

また、市内の農業法人が穂坂町地内において、サツマイモなどの野菜を大規模に栽培する予定であり、新たな特産品などに繋がるものと期待しておりますので、本市といたしましても、農地の紹介や関係者との調整など、積極的に支援してまいります。

次に、商業の振興についてであります。

近年、まちなかへの新規出店が活発になっており、以前にも増して駐車場の不足などが指摘されているため、葦崎駅周辺の店舗を訪れた方に駐車チケットを配布する事業をモデル的に実施いたします。

また、葦崎市商工会と連携して、商店街や駐車場を案内するマップ看板を設置し、魅力の発信と利便性の向上に努めてまいります。

次に、男女共同参画社会の推進についてであります。

策定委員会の委員をはじめ、関係団体及び市民の皆様のご協力を得て、策定を進めております第3次男女共同参画推進計画につきましては、新たに女性活躍推進計画と配偶者等暴力防止計画を含めた内容とし、テーマを「すべての人が自分らしく暮らせるまちにらさき」といたしました。

明年度からは、計画に基づいた施策を展開し、男女がお互いに人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、社会のあらゆる分野において、その個性と能力を十分に発揮することができるまちを目指してまいります。

次に、勤労者福祉の充実についてであります。

働く女性の活躍を後押しするため、子育てと就労の両立支援や環境づくりに取り組む企業に対して助成する制度を県内で初めて創設いたします。

引き続き、誰もがやりがいや充実感を持って働くことができるよう、ワークライフバランスを推進してまいります。

次に、国際交流の推進についてであります。

昨年度、フェアフィールド市との「姉妹都市締結50周年記念」として、オンラインによるセレモニーの開催や記念誌を作成し、半世紀に及ぶ交流の歴史と変わらぬ絆を相互に確認したところでありますが、3年ぶりとなる中高生派遣事業や親善使節団訪米事業などを再開できるよう準備を進めてまいります。

次に、市民等との協働の推進についてであります。

さらなる市民活動を支援するため、まちづくり活動補助金を拡充するとともに、NPO法人設立に要した経費の一部を補助する制度を創設いたします。

また、ミアキスとの共同により、本市の食、観光、子育てやまちづくり等に精通した方々を招き、クロストークイベントなどを定期的を開催してまいります。

今後も、チャレンジする若者を応援するほか、関係人口の拡大・創出を図るとともに、多様な意見を取り入れて若い世代に選ばれるまちづくりに繋げてまいります。

次に、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進についてであります。

マイナンバーカードにつきましては、先月末時点で59.6%の交付率となり、全国平均を上回っております。

引き続き、関係各位のご協力をいただきながら普及啓発に努めるとともに、誰一人取り残さないデジタル化の実現に向けて、交通弱者や高齢者などで希望する方には自宅を訪問し、申請に必要な支援を行ってまいります。

また、庁内プロジェクトチームによるマイナンバーカードの利活用を含めたDXの推進に係る調査研究報告を受け、公共施設利用者の利便性向上を図るため、市民交流センター・ニコリをはじめ、東京エレクトロン葦崎文化ホールや市営総合運動場などの利用に際し、「いつでも・どこでも」インターネットで予約から使用料の決済までできるオンライン予約申請システムを導入いたします。

加速化する社会情勢等の変化において、行政のデジタル化は急務であることから、今後も積極的に推進してまいります。

これら施策の具体化のため、今議会におきまして、ご審議をお願いいたします
案件は、これまで申し述べましたことを踏まえ、

予算案件 25件

条例案件 16件

その他案件 1件 であります。

以下、令和5年度当初予算案の概要について、ご説明申し上げます。

明年度の予算編成にあたりましては、物価や電気料金の高騰など社会情勢の変化が市民生活に大きく影響を及ぼすなか、「第7次総合計画」や「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」の着実な推進を図るため、「チーム葦崎」で諸課題の解決に取り組み、「さらに前進」を目指した予算編成を行ったところであります。

その結果、一般会計当初予算額は、前年度当初予算に比べ、14.1%増の、167億5,300万円といたしました。

このうち、歳入についてであります。国の明年度の経済見通しでは、実質GDP成長率1.5%、名目GDP成長率を2.1%程度の伸びと見込んでいるものの、本市におきましては、市内大手企業の業界市場における影響から、法人市民税の減収を見込み、市税を前年比5.0%減となる54億6,635万8千円としております。

また、地方交付税におきましては、普通交付税では基準財政収入額の増加により、15.9%減の13億3,500万円、特別交付税は9.1%増の6億円、地方交付税の振替財源である臨時財政対策債は、61.4%減の8千万円を計上したところであります。

なお、企業版を含むふるさと応援寄附金につきましては、返礼品の充実や情報発信のさらなる強化に取り組み、47.8%増となる6億2,550万円を計上しております。

次に、歳出につきましては、退職者数の見込みによる退職手当等の減により、人件費を1.9%減の22億1,792万9千円、物価高に対応した学校給食材料費、ふるさと応援寄附金に係る返礼品等経費、また、健康ふれあいセンター・道の駅にらさきの指定管理料等の増により、物件費に9.2%増の29億4,528万5千円を計上し、扶助費は、子ども・子育て支援事業費や障害者自立支援給付費等負担事業費等の増により、3.1%増の23億9,603万5千円、補助費等は、峡北広域行政事務組合負担金や病院事業会計補助金等の増により、4.4%増の29億6,990万6千円、普通建設事業費は、民間保育所等施設整備費補助金、市営新体育館のPFI・公民連携による設計業務及び市営総合運動場の夜間照明の整備等により、95.3%増の30億9,754万9千円を計上しております。

また、公債費は、減収補てん債の償還等により、4.9%増の18億2,039万1千円、繰出金は、山梨県後期高齢者医療制度広域連合負担金の増により0.6%増の10億5,213万2千円を計上しております。

扶助費、公債費の義務的経費の増加に適切に対処するとともに、投資的経費を中心に、将来を見据えたまちづくりに取り組む計画的な予算となっております。

次に、特別会計であります。新たに甘利山財産区特別会計を加え、12会計で、合わせて、64億2,213万6千円の予算を計上しております。

また、企業会計につきましては、市立病院事業会計ほか3会計で、前年度と比較して、5.7%増の総額68億3,479万9千円を見込んでおります。

続きまして、令和4年度補正予算案についてであります。

一般会計につきましては、981万5千円を増額し、現計予算額は、165億7,529万円としております。

その主な内容につきまして、ご説明申し上げます。

まず、歳入につきましては、市たばこ税の増収を見込み4,329万円を増額し、普通交付税の再算定により、地方交付税を6,867万9千円増額補正しております。

また、国庫支出金を1,172万2千円増額するほか、県支出金を7,748万5千円減額し、市債を4,970万円増額補正しております。

次に、歳出予算についてであります。

主なるものについてであります。明年度の「こども子育て課」新設による庁舎の修繕費として庁舎管理費に400万円、ふるさと応援寄附金の増額に伴う返礼品等の経費として、ふるさと納税事業費を5,954万円増額補正しております。

また、国の補正予算により、県営中山間地域総合整備事業費を3,677万円、県営農業競争力強化整備事業費を2,125万円追加計上しております。

なお、事業費の確定見込みにより、財産管理費588万8千円、市長選挙執行経費1,142万8千円、文化ホール管理運営費1,432万7千円等を減額補正しております。

次に、特別会計についてであります。

いずれの会計も主に事業費の確定、精算に伴う補正であり、国民健康保険特別会計で44万円、後期高齢者医療特別会計で656万4千円を増額し、介護保険特別会計で1億140万4千円、介護サービス事業特別会計で62万5千円を減額するものであります。

次に、企業会計についてであります。病院事業会計では、病院事業収益を6,181万2千円減額しており、事業費の確定、精算に伴い、水道事業会計で480万4千円、下水道事業会計で1,237万9千円をそれぞれ減額補正しております。

なお、その他の案件につきましては、いずれもその末尾に提案理由を付記してありますので、よろしくご審議の上、ご議決あらんことをお願い申し上げます。

今後とも、社会経済情勢の変化に柔軟に対応し、効果的・効率的な行財政運営に努め、市政をさらに前進させ、「チーム葦崎」で新たなステージに向かって全力で取り組んでまいり所存でありますので、より一層のご理解とご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。私の所信といたします。

令和5年2月22日

葦崎市長 内藤 久夫